

小学校外国語活動における目標、評価

佐賀県センターWeb「学習指導要領における学習評価の進め方(小学校外国語活動)」より抜粋

URL : http://www.saga-ed.jp/kenkyu/hyouka_jirei/pdf/11_syou-gaikokugo.pdf



1 学習指導要領に示された外国語活動の目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いた り話したりしながら、外国語の音声 や基本的な表現に慣れ親しんでい る。	外国語を用いた体験的なコミュニケ ーション活動を通して、言葉の面白さ や豊かさ、多様なものの方や考え方 があることなどに気付いている。

○ 外国語活動の評価の記録については、設定された観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合に、その特徴を記入する等、児童にどのような力が付いたかを文章で記述します。

3 評価の方法は？

- Ⓐ 行動観察 Ⓑ 発表観察 Ⓒ 制作した作品やワークシート等への書き込み
Ⓓ 自己評価 Ⓔ 相互評価

コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ・相手の話を一生懸命に聞こうとしている。
- ・相手の話をよく聞き、うなずいたり反応したりしている。
- ・進んで友達や担任、ALTに話しかけようとしている。
- ・相手の質問に積極的に答えようとしている。
- ・言語や非言語（アイコンタクト、表情、ジェスチャー）などを使って、自分の伝えたいことを表現しようとしている。
- ・進んで聞き返したり、質問をしたりしようとしている。
- ・活動に進んで参加し、友達と関わることを楽しんでいる。

外国語への慣れ親しみ

- ・歌やチャンツに出てくる英語に親しみ、楽しんで口ずさんでいる。
- ・英語のリズムを感じて楽しく聞いたり、口にしたりしている。
- ・教師や音声教材の英語を聞いて、反応したり真似したりしている。
- ・まとまった話を聞いて、大まかな内容を理解し、反応している。
- ・英語の一部を聞き取って、内容を類推している。

- ・簡単な英語表現を使いながら、ゲームなどの活動を進めている。
- ・音とものを結び付けながら活動している。
- ・簡単な英語を使って、相手とのやりとりを楽しんで行っている。

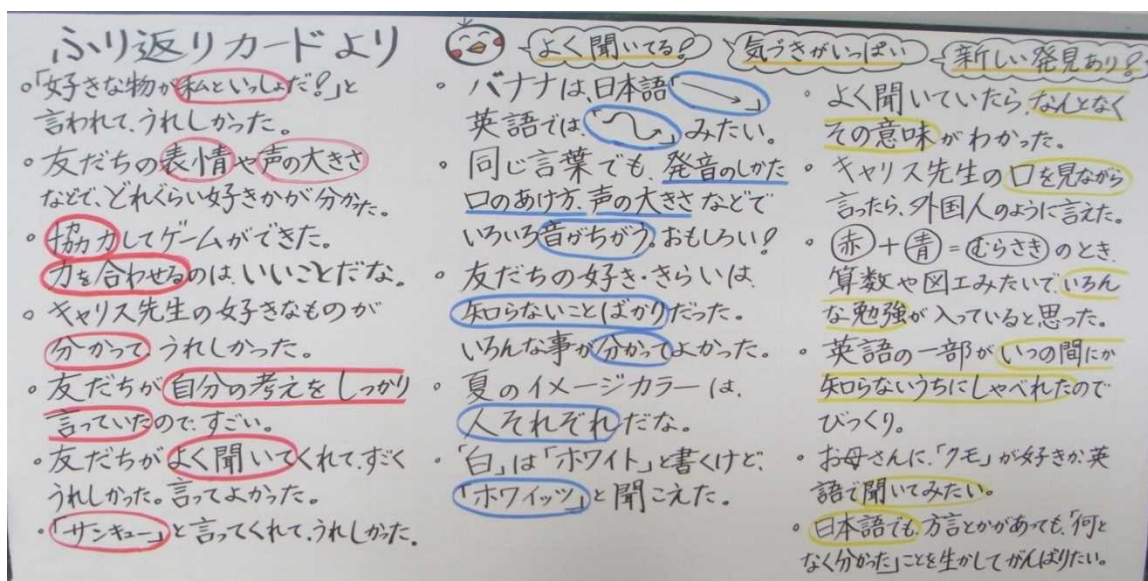
言語や文化に関する気付き

- ・コミュニケーションのマナーを意識し、相手とのやりとりを楽しんでいる。
- ・世界には、様々な言語や文化があることに気付いている。
- ・様々な言語に関心をもち言葉の面白さや言語の大切さに気付いている。
- ・友だちのよさに気付き、それを認める発言をしている。
- ・自文化と異文化の違いや共通点に目を向けている。
- ・自文化や異文化のよさに気付いている。
- ・自文化や異文化のよさに気付き、それらを受け容れる気持ちをもっている。

4 評価における留意点

- 評価においては、どの観点についても、定着を求めるものではありません。評価をするのは、児童の「関心・意欲・態度」「慣れ親しみ」「気付き」であり、よって、能力や技能(スキル)の定着状況を評価するようなことがないようにしましょう。
- 評文の文末に「～できる」という表現を使うと、できる・できないの線引きのようになり、中学校以降の外国語科教育の評価の考えになります。
→「～している」「～する」「～しようとしている」などの表現が望ましいでしょう。
また、目標に照らして「おおむね満足できる」状況にあるかどうかの評価を中心とします。
- 「これができていないから頑張らなさい」という捉えではなく、児童にとって英語は初めての言葉であり、“Hello!”と答えるだけでも十分にほめるに値するという見方で、形成的に、プラスの思考で評価を考えましょう。

自己評価カード（振り返りカード）の項目は、その時間の評価規準をできるだけ具体的にした形で示します。また、記述させる前に、活動で良かった点をほめたり、振り返りで考えさせたいことについて触れたりすると、より具体的な評価ができます。児童の記述の中で、評価のポイントになるような部分は、特にしっかりチェックしましょう。



参考：本単元の振り返りカードの記述より

